



【報道資料】

1997年7月17日

科学と芸術の創造的出会いに貢献した人に贈られる新しい試み  
**第1回「ロレアル賞」受賞者決定！**

大賞は中津 良平さん／土佐 尚子さん、河口 洋一郎さんの2組に  
奨励賞は藤幡 正樹さん、韓 亜由美さんに

アーツ アンド サイエンス ファンデーション(事務局：茨城県つくば市、代表：河本哲三)はこのほど、科学と芸術の分野にまたがり、創造的な出会いに貢献した人に贈られる「ロレアル賞」の最終選考会を開き、第1回目の“ロレアル大賞”として中津 良平さん(50歳・京都府)・土佐 尚子さん(35歳・京都府)の共同作品「インタラクティブ・ポエム」と、河口 洋一郎さん(45歳・茨城県)の作品「自己組織化する色彩」の2つを選出しました。

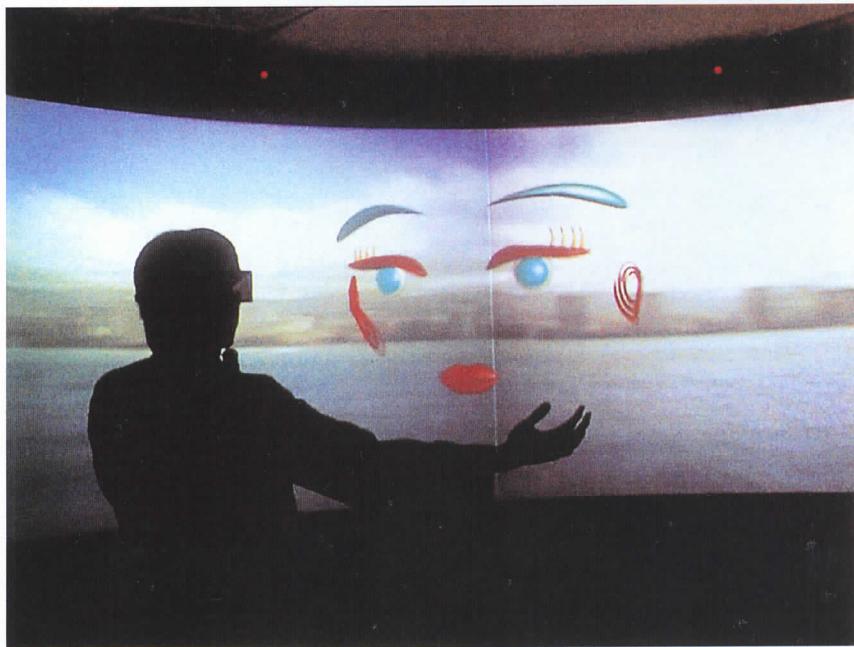
また、奨励賞は藤幡 正樹さん(40歳・東京都)の作品「カラーキュービック・パレット」と韓 亜由美さん(39歳・東京都)の作品「90秒の前奏曲」に決定しました。“ロレアル大賞”には賞金400万円、奨励賞には賞金200万円が贈られます。

このロレアル賞は「科学と芸術の創造的出会いに貢献している人々の支援」を目的に、フランスに本拠を置く世界最大の化粧品メーカー、ロレアルグループと、その日本法人である日本ロレアル株式会社(本社：東京・渋谷区：社長 ロイック・アルマン)がスポンサーし、今年創設されました。毎回テーマを設定して広く公募し、科学と芸術の領域に橋を架ける優れた作品を選出し、顕彰していきます。

実際の運営は非営利の任意団体アーツ アンド サイエンス ファンデーションが行っています。

選考はノーベル化学賞を受賞したベルギーの化学・物理学者、イリヤ・プリゴジン氏を委員長とする総勢8名の国際選考委員会により行われるため、創設当初より、極めて権威ある賞として内外から高く評価され、注目を集めていたものです。

第1回目の今年の公募作品のテーマは「色」。国籍年齢を問わず、日本を拠点に活動しているあらゆる分野の人々を対象に、この1月から公募を行い、4月30日の締め切りまでに音楽と絵画をコンピューターによって結ぼうとした意欲的な作品や、86歳の女性による日本古来の色の研究等々、60点もの応募がありました。



1997

### 第1回 ロレアル大賞

中津 良平  
土佐 尚子

#### 「インタラクティブ・ポエム」

顔を持ったコンピュータとの対話により、情感に満ちた  
「詩」の世界を映像化したインタラクティブな作品

コンピュータ・テクノロジーに依拠しながらそれをきわめて人間的な対話へと方向づける仕事であり、高度なテクノロジーのただなかに人間的な世界を表現しようとするヒューマンな創造性が、多くの審査員の共感を呼んだ。コンピュータによるコミュニケーションと、たとえばわれわれの日常世界の基底をなしている顔の表情や声の読み取りのコミュニケーションとが、ここでは「詩」という方法論を通じて融合させられているといってもいいだろう。そうしたヒューマンなコミュニケーションを可能にする空間として、さまざまな色彩についての高度な空間的操作が見られることが注目を集めた。



## ～選考評～

### 中津 良平・土佐 尚子／「インタラクティブ・ポエム」

中津・土佐両氏の作品は、コンピュータ・テクノロジーに依拠しながら、それをきわめて人間的な対話へと方向づける仕事をしており、高度なテクノロジーのただなかに、人間的な世界を表現しようとするヒューマンな創造性が、多くの審査員の共感を呼びました。コンピュータによるコミュニケーションと、たとえばわれわれの日常世界の基底をなしている顔の表情や、声の読み取りのコミュニケーションなどが、ここでは、「詩」という方法論を通じて融合させられているといつてもいいでしょう。こうしたヒューマンなコミュニケーションを可能にする空間としてさまざまな色彩についての高度な空間的な操作が見られることが注目を集めました。

### 河口 洋一郎／「自己組織化する色彩」

この作品群の特徴は、なによりも自己組織化という考え方を色彩表現へと応用することによって、全く新しい色彩の世界を創造したことになります。コンピュータ・グラフィックスという今ではありふれた技術の領域の中にありながら、しかし河口氏の作品は、単に色彩を技術的に処理することを考えるのではなく、逆にいわば色彩への自己組織化を通して、われわれに生命の不思議さを瞑想させるような新しい思考をそこに展開しています。その思考の強靭さと、それが持つ他の芸術表現（例えば音楽、形象）との柔軟なコラボレーションの可能性に対し、審査員一同が深い感銘を受けました。

### 藤幡 正樹／「カラーキュービック・パレット」

この作品は、色彩の意味についての「教育」というフィールドに立っているところが独創的で、ユニークでした。コンピュータ・テクノロジーの時代において、色彩経験がラディカルに変化しつつあるという認識に立って、それに対応する色彩の分析と教育とを可能にするソフトウェアを開発し、大学での授業を通じてそれを実践的に行っている藤幡正樹氏の活動は、色彩についての新しい感性を育む可能性を秘めているものといえるでしょう。今後、芸術作品における色彩を論じる方法が変わるかもしれないと思わせるような知的な迫力に満ちていました。

### 韓 亜由美／「90秒の前奏曲」

この作品は何よりも色彩に関する見方の新鮮さで審査員を魅了しました。高速道路というわれわれのありふれた現実に、色彩がどのように介入することができるか、それがこの作品が引き受けた問題であったということができると思いますが、韓 亜由美氏はわずかな帯状の色彩を導入することで、高速道路のトンネルの体験を、まるで色彩の音楽の体験に変えてしまうことを夢見ました。現実的な実現可能性に関してはいろいろ問題も指摘できますが、われわれは、この色彩への夢見る権利を高く評価したいと思い、奨励賞に選びました。



## 1997年度国際選考委員会メンバー

委員長 イリヤ・プリゴジン ベルギー ブリュッセル自由大学名誉教授  
1977年度ノーベル化学賞受賞（散逸構造論）

### 委 員

大山 正	日本大学 文理学部学部長・教授（色彩心理学、実験心理学）
ジュゼッペ・カリオティ	ミラノ理工大学 教授（物性物理学）
ピエール・クレ	フランス国立科学研究所センター(CNRS) 教授（非線形理論）
小林 康夫	東京大学総合文化研究科教授（表象文化論）
小町谷 朝生	東京芸術大学 美術学部教授（色彩学、造形理論）
田中 一光	グラフィック・デザイナー
永山 国昭	岡崎国立共同研究機構生理学研究所教授 東京大学総合文化研究科教授（生物物理学、生体計測学） (50音順)

### 選考基準

#### 【第1次審査】

- (1) 独創性
- (2) 科学と芸術の領域にいかに相互作用しているか
- (3) 芸術的なインパクト
- (4) 科学的なインパクト
- (5) 将来性

上記5項目の選考基準を基に、選考委員全員が各5点満点で採点、上位20名が第1次審査通過

#### 【最終選考（6月10日）】

日本時間午後6時からKDD大手町ビルの国際テレビ会議室で東京とブリュッセルを結び、国際選考委員会による最終審査。再度上位20名を選考し、ロレアル大賞2名、奨励賞2名を決定した。